

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録や通常の診療で行った検査データを使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報や保管されている検査データを利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	認知症外来初診における Geriatric Depression Scale-15 (GDS-15) の項目最適化に関する後方視的観察研究
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	精神科 講師 吉野祐太 (診療科名)(職名)(氏名)
研究期間	研究機関の長の許可日 ～ 2029年6月30日
対象となる方	1997年6月から2026年3月に愛媛大学医学部附属病院を受診された方のうち精神科認知症外来を初診された患者さん
利用する試料・情報等	(利用するカルテ情報) 性別、年齢、教育年数、合併症、既往歴、心理検査・評価尺度データ、血液検査データ、画像検査データ 等 (利用する試料) なし
研究の概要 (目的・方法)	GDS-15(うつ病評価尺度)は、認知症外来においてうつ病の評価によく用いられる質問票です。しかし、認知症の精神症状としての抑うつや、抑うつと見間違いやすい活動性低下なども混在することから、GDS-15によるうつ病の診断精度は決して高くありません。その要因を探り、よりうつ病に関係する質問を割り出すことで、うつ病の診断精度を向上することが本研究の目的です。
個人情報の保護 について	この研究で収集される情報は氏名、住所、生年月日など患者さんを直接特定できる情報を削除して誰のものかわからないようにした上で利用いたします。患者さんを特定するための情報(対応表)は、院内で個人情報管理者が厳重に保管し外部への提供は行いません。また、保管される情報を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。

	なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。
お問い合わせ先	愛媛大学医学部附属病院精神科 吉野祐太 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089-960-5315（精神科医局）